

小野産業(株)中間決算説明会 質疑応答の主な内容

1. RHCM技術で生産された製品は高品質で、他社ではなかなか作りえない製品であること、また、積極的提案営業とも相俟って多くのユーザーに受け入れられているようであるが、ユーザーサイドで軌道に乗ってくると内製化であったり、安い海外へ生産移管するということになり、それが業績にも影響を与えているのではないか。そういった観点からは中長期的に業績が安定しうる、例えば中国に移管する際、あるいは内製化する際にライセンスフィーが入るといったビジネスモデルは考えられないか。

(回答)

RHCM技術を核としたアライアンス及びライセンスビジネスは非常に重要であると考えており、積極的に行っている。ある製品が海外に移管した場合、ライセンス供与先を紹介し、弊社も量産化を支援している場合がある。そこからライセンスフィー(ランニングロイヤリティー)やセールスコミッションをもらうことになっている。

昨年に比べてライセンスビジネスは拡大している。同ビジネスには色々あって、技術をライセンスすると普通ダウンペイメントをとる。それからランニングロイヤリティーをとる。また、機械やそれに付随する金型を売るといったこともある。そういった意味ではライセンスビジネスは増えている。

注目されている技術なので真似するところは増えている。特に韓国とか中国は特許など全く考えないでやっている。ただ、弊社の主要ユーザーはしっかりした特許に裏打ちされた技術を使った製品を選択する。

2. RHCM 技術のライセンス供与先数の動向はどうか。

(回答)

ライセンス供与は厳選しているが、上期下期ともコンスタントに新規契約先が決まり、計画よりは上振れしている。